



杉並区立  
浜田山小学校

学校だより 第554号  
令和3年度 10月号

# はまだやま

校長 伊勢 明子  
副校長 越山 宗治

## 「本当の友達」

副校長 越山 宗治

新型コロナウイルスの新規感染者数が、一時期に比べ減ってきていますが、10歳以下の子どもの感染が問題になっています。保護者や地域の皆様におかれましても十分注意されて、健康にお過ごしいただければと思います。

さて、私の中学一年のときの担任の先生は、私にとってとても型破りな方でした。というのもその先生は「どうするか自分たちで考えて決めなさい。」という指導が多く、決して「～しなさい。」とは仰らなかったからです。ですから、通常あまり中学校では行われなような「お楽しみ会」を私たちのクラスでは行われるなど、とても自由な雰囲気のクラスとなりました。しかし、私にはもっと驚いたことがあります。それは「仲間を大切にしてください。」という教で、そのこと自体は当たり前の話だと思っています。しかし、その中身に私はものすごく驚いたのを今でも覚えています。

先生が仰るには、私たちの先輩の時代、暴走族に入ったクラスメイトを救うために、クラスの全員が暴走族のところへ行って、その友達が暴走族から抜けるのを認めさせたというのです。その話を聞いたとき、正直なんという先生のクラスになってしまったんだろうと思いました。そして、「できれば自分には行きたくない。クラスメイトが勝手に暴走族に自分から入ったのに、何で自分が怖い目に遭わなければいけないんだ。」とか、「みんなが行くというのに、自分だけ怖いから行かないとは言えない。」などいろいろな心配していました。幸いなことに、暴走族と関わるような友達はいなかったもので、対決はしないで済みました。しかし、一年間このクラスにいて、私の考え方は変わりました。それは、「何が正しくて、何がよくないか自分で判断しなければならぬ。その上でクラスの友達が間違ったことをしていたら、止めさせよう。」ということです。もちろん、暴走族と対決したいとは思いませんが、そのときの仲間となれば、私でもできたかもしれないと思っています。

さて、世の中、周囲に影響されることがとても多いのではないかと思います。人は易きに流れやすいもので、例えば赤信号で、みんなが渡っているとき、「それは間違っているから。」と考えて一人で残ると損をしたような気さえすることもあります。しかし、反対にみんなが待っているときに一人で渡るのは、罪悪感がつきまといまいます。つまり、周囲の状況によって、人はどう感じるかが変化するのです。私は、「本当の友達」であったなら、一緒に正しいことをして喜びを分かち合い、間違ったことをしていたら、正しい方向に向かせてあげる関係をいうのだと考えます。そして、そういう仲間が増えていくことで、自分の身の回りの社会が住みよくなるのではないのでしょうか。「本当の友達」を大切にしたいと思います。

### — 10月の生活目標 — 【あいさつ名人になろう】

さわやかな秋風が吹き、校庭では、体育学習発表会に向けて各学年で練習に励む姿も見られ始めました。暑さが和らぎ、充実した生活や学習を送るにはとてもよい季節を迎えました。

今月の生活目標は、「あいさつ名人になろう」です。今年度初めての挨拶に関する目標です。低学年はまずは元気な挨拶をすること、中学年はすすんで挨拶をすること、そして高学年はいろいろな人たちにも挨拶をすること、を目標に指導や声かけを行っていきます。新型コロナウイルスの感染予防対策のため、大きな声は出せません。その分、相手の眼を見て、表情にも気を付けた気持ちの伝わる挨拶や返事ができるとういことです。

保護者や地域の皆様も、本校を訪れた際には、子どもたちに挨拶を返していただき、挨拶を交わすことの気持ちよさを子どもたちに実感させていただければ幸いです。

学校、家庭、地域が連携し、あいさつ名人がたくさんいる浜小を目指していききたいと思います。